平成２３年１２月の解説（週間天気予報）

【１２月の天候状況】

上旬は全国的に数日の周期で天気が変わりました。冬型の気圧配置が長続きせず、この時期としては低気圧や前線の影響を受けることが多くなりました。３日には発達しながら本州付近を通過した低気圧により、北日本から西日本にかけて大雨となったところもありました。

中旬は中頃を中心に冬型の気圧配置が強まり、全国的に寒気の影響を大きく受けました。北日本から西日本にかけての日本海側では強い寒気の影響で雪の日が多く、大雪となったところが多くなりました。一方、太平洋側は気圧の谷が通過した旬のはじめを除いて晴れの日が多くなりましたが、強い寒気の影響で一部の平野部では雪が降り、積雪となったところもありました。沖縄・奄美は、寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は旬のはじめは冬型の気圧配置となり、23 日から 24 日にかけては、低気圧の通過に伴い全国的に曇りや雨となりました。その後は、北日本を中心に一時的に冬型の気圧配置となりました。

月の後半を中心に断続的に強い寒気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけて月平均気温が低く、気温は上・中・下旬のいずれも低くなり、北日本の日本海側では降雪量が多くなりました。東・西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨あるいは雪の日が多く、月間日照時間がかなり少なくなりました。一方、北日本から西日本にかけての太平洋側では、月のはじめは曇りや雨の日が多くなりましたが、中頃以降は冬型の気圧配置が続き晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美は月を通して寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く、月間日照時間がかなり少なくなりました。

【１２月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値(注) より 3 ポイント高い 77%でした。地方毎の適中率は関東甲信地方と東海地方及び西日本で 5～10 ポイント高くなりました。北海道地方と沖縄地方では 5～6 ポイント低くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値程度か例年値より小さく、東海地方と西日本では例年値より 0.6～0.8℃小さくなり、全国平均では 1.7℃になりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、各地方とも例年値程度か例年値より小さく、関東甲信地方、東海地方、近畿地方及び中国地方では例年値より 0.5℃小さくなり、全国平均では 1.8℃になりました。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【２月の週間天気予報の利用にあたって】

日本の南海上、または南岸を東から北東へ進む低気圧を南岸低気圧といい、その進路や発達程度によっては本州の太平洋側の地方に雨や雪を降らせます。低気圧に向かって冷たい北よりの風が吹き込むと気温が低下するため、時には大雪となることもあります。天気が雨になるか雪になるかは、気温によりますので、週間天気予報で雨や雪が降る予報が発表されている場合は、天気とともに気温の予想も含めて利用するようにして下さい。